

先般、ライオンズクラブ様よりご寄付をいただきました。作業所で使用する作業台と調理台を頂戴しました。

ご厚意に応えられるよう、有意義に使わせていただきます。有難うございました。

募集

あいぷろ後援会を募集しています！

あいプロジェクトの活動を支えて下さる後援会の会員さんを募集しています。ご入会いただける方、また、お知り合いの方で入会ご希望の方がいらっしゃいましたら、あいぷろ事務所までお問い合わせ下さい。

本会は、障がいのある人たちが地域の中で豊かな人生を送ることを願い、社会福祉法人あいプロジェクトの事業を後援することを目的とします。

会員区分	会費
一般会員	年間 5,000円
賛助会員	年間1口 1,000円(1口以上何口でも)
法人会員	年間1口 10,000円(1口以上何口でも)
ボランティア会員	無し

先般、法人会員にご入会いただいた企業様を以下に掲載させていただきます。

今後とも末永いお付き合いを賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

株式会社横井サイト工房 様

株式会社キタメリ 様

➤ 障がい児・者の外出ヘルパー、各種ボランティアを募集しています。

障がい者支援に興味のある方、農作業やお菓子作りに興味のある方は、あいぷろ事務所までお気軽にご連絡下さい。

➤ アルミ缶やインクカートリッジの回収を行っています。

アルミ缶・使用済みインクカートリッジをご提供いただける方は、あいぷろ事務所までご連絡下さい。ご協力お待ちしております。

➤ 皆様からの様々なアイデアを募集しています。

障がい児・者と共々生きる社会を目指して、どんな取り組みができるのか等、皆様からのアイデアを募っております。どんなことでも結構です。お気軽にご連絡下さい。

➤ 自主製品を販売しております。

クッキー・パウンドケーキ・カステラ・ジャムなど、あいぷろ自主製品はいかがですか？お買い求めいただける方は、あいぷろ事務所までご連絡下さい。

あいのコラム

予期せぬ事態には臨機応変な対応が求められる。機転の利くアドリブができればよいが難しいものである。一方で地味だが毎日同じことを繰り返すことも大切なことである。生活にしろ、仕事にしろ、やるべきことは単調で飽きやすい。しかしこの単調な繰り返しがあってこそその臨機応変であることを忘れないようにしたい。

☆☆☆ あいぷろ通信 ☆☆☆



新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。旧年中のご厚情に深く御礼申し上げます。

去年は作業所の新築計画において、施設整備の申請を国に上げていく予定をしていました。しかし、建設予定地が定まらず申請を断念いたしました。

今年は改めて計画を立て直し、施設整備の申請を進めていきたいと考えております。また箱モノだけでなく、支援の拡充につきましても、利用者さんが地域でより暮らしやすい仕組みについて、より精度の高いものを目指して日々勉強を続けていきたいと思っております。

活動を始めて早5年が経ちました。家族や利用者が抱える問題や課題、生まれてから成人までの有効な支援の有無、制度や事業内容の矛盾等々克服すべきものは山積していますが、改めて初心に帰り、それら課題を直視してひとつずつ手ごたえのある答えを出していきたいと思っております。

年々たくさんの方々から応援をいただけるようになりました。今後益々この輪が充実していきますように、本年も変わらぬご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人あいプロジェクト 理事長 今村博之



お知らせ

これまでスタッフの一員として利用者に関わってきた西麻規子が、昨年12月をもって結婚退職いたしました。法人立ち上げの頃からあいぷろを支えてきた西から、最後に皆さんへメッセージがあります。

私があいぷろの支援者として活動してきた5年間は、とても充実した素晴らしい時間でした。嬉しいことがあったり、悲しいことがあったり、悩んだり、笑ったりと色々な事があって本当に沢山の事を勉強させていただきました。あいぷろでの活動を始めた当初は、「障がいって何？」というレベルから始まり、支援に入って色々な事を悩み、考えました。どうしたらいいかわからず悔しくて帰りの車の中では泣いて帰る日もありました。「支援者だから立派な事を言わなければいけない。」と思ったり、教科書の真似事をしてみたり・・・すごく悩みました。そんな中、ある利用者のお母さんから「わからない時は正直にわからないって言っていいんだよ。お母さん達はあなたよりもこの子の支援についてはずっと先輩なんだから」と温かい言葉をいただきました。私は心がとても軽くなりました。そのことがあってからは、自分も一緒に勉強して成長していこうと考えるようになりました。

私にとってこの5年間はあいぷろ中心の生活であり、それがなくなることはとても淋しく感じています。これからは、いつも近くにいる支援者という形ではなくなってしまいますが、また何らかの違った形で関わることができればと思っています。

これまで私に根気強くお付き合いいただき、支えて下さったことを心から感謝しています。今まで本当にお世話になりました。ありがとうございました。西 麻規子

平成23年1月20日発行
第14号

【発行元】
社会福祉法人あいプロジェクト
広報編集責任者: 浜瀬 達也

〒510-0805
四日市市東阿倉川254番地
/Fax 059-358-0064
E-mail i-project@sf.commufa.jp

【利用料等振込先】
百五銀行 阿倉川支店 普通: 346869
名義: 社会福祉法人あいプロジェクト

HPを開設しました！
「社会福祉法人あいプロジェクト」で検索して下さい

今号の目次

- ページ1
- ・年頭挨拶
 - ・スタッフ便り
- ページ2
- ・特集『学童期をともに過ごす』
 - ・保護者手記『母の思い』
- ページ3
- ・インタビュー～鈴木久敏さん
 - ・製菓通信
- ページ4
- ・ご寄附をいただきました
 - ・会員募集
 - ・法人会員様ご紹介

学童期をともに過ごす

まず、少しの自己紹介を。
教員になったときから障害児教育に携わっています。はじめは肢体不自由児のお子さんとともに10年、それから一般の学校で障害児学級の担任として22年。その中で、入学するまでの子どもたちの過ごし方で、小学校生活での適応のしかたが違っていると感じました。入学までに十分な愛着関係と信頼関係のできているお子さんは、少しステップアップした課題を示してもがんばって取り組んでくれるのです。家族関係に不安定さがあったり、就学前にその「子」にあった対応がなされなかったりする場合、落ち着いて課題や「他人」に向かえないことが多くありました。

「人」の育ちを考えたときに、そのときそのときにするべきことやしておきたいことがあります。乳児期には愛着関係を、幼児期には大人に対する信頼関係を、学童期には規範と勤勉さを、青年期に向かって自主性や自立に向かう態度を身につけることが求められます。障害の有無に関わらずそれぞれの時期に発達課題があること、他方でひとりひとりに合わせた障害や個性に合わせた学習課題があると思っています。それぞれのステージを適切に過ごしていくことが安定した育ちになるのだらうと感じました。そのすべてが将来の「社会参加」につながっています。

その中で、私が関わるのは「児童」と呼ばれる6年間です。大人への信頼関係のできあがっている子どもたちには、とても素直に指導が入っていきます。親や先生の関わりが自分のためであるということを知ってくれます。学童期に獲得すべきは「規範と勤勉さ」です。それは集団で暮らす・集団で学ぶためのルールを身につけること、すべきこと・せざるを得ないことを「する」実行機能を身につけることです。本来学校で求められているのは、数やことばの学習を代表とする知育かもしれませんが、基礎的な学習はコミュニケーションを助けるツールとして使えますが、それよりも大切な学びは、自分に必要なことを自分で考えることだと思っています。トイレに自分から行くこと、わからないことをわからないと言うこと、困ったときに困った表情になる...そんなことができるようになってほしいと思っています。

「わかった?」「わかった」というやりとりではなく、『何が』わかったのかが確かめられるような問いかけ。あと『少し』のできる『少し』を見極めて、その『少し』をがんばらせること。自己コントロールを身につけるためには、他者からのコントロールを受け入れることができるようになること。それが、将来の「社会参加」をスムーズにすることと思ひ、そんなことを目標にしながら学童期をともに過ごしています。

2010年12月27日

あいぶろ利用者の保護者が、子どもへの想いを綴るコーナーです。

5回目となる今回の書き手は、前回走者の中西さんからタスクを受けた、荒木やす葉さん(24歳)のお母様です。

「母の思い」

我が娘は、知的障害を持っているとても元気な24歳です。あいぶろにお世話になり二年半になります。最初の一年は、仕事をすることがなかなか受け入れられず、暴れたり仮病を使ったりで大変でしたが、働いたらお給料がいただける喜びを知り、今では一週間の仕事の段取りを把握し、毎日頑張って仕事しています。

最近、彼女にとって悲しいことと嬉しいことの二つの出来事がありました。

一つ目は、作業所に入った時からずっとお世話になっていた支援員さんが、結婚のため遠くに行かれることです。最初、そのことを知った時は手足を震わせ、泣きながら寝ました。大好きな支援員さんだったので大変なショックだったようです。

二つ目の嬉しいことは、姪が里帰りして出産したことです。赤ちゃんをとても可愛がり、「なんで私はお乳が出ないの?」と悲しがっています。生まれる前から、「私が赤ちゃんの係」と言って張り切っています。

大人になったら成長は止まるのかと思いましたが、こうした感情面は日々成長するものだと痛感しました。

これからいきいきと、元気に通所することが母の願いです。

サポートセンターあいぶろ作業生 荒木やす葉の母(賀子)

今回は中山雄介さんのご家族の予定です。乞うご期待!

シリーズ企画第2弾!

あいプロを支える人たち



インタビュー

『ユニオン昭和株式会社』鈴木久敏さん



シリーズ第2弾となる今回は、ユニオン昭和に勤務されている鈴木久敏さんにお話を伺いました。



鈴木さんが勤務されているユニオン昭和株式会社様とあいプロジェクトは、昨年からお付き合いをさせていただいています。サポートセンターあいぶろの作業活動でアルミ缶を圧縮し、それを昭和電工様にリサイクル回収してもらっています。また、鈴木さんは個人で農業も営んでおられ、そこでの作物や野菜の種をあいぶろの農作業班や製菓班に提供していただくなどの協力もして下さっています。そんなあいぶろと繋がり深い鈴木さんにインタビューさせていただき、その素顔に迫りたいと思います。

(インタビュー) ~あいぶろとの出会いは?~

(鈴木さん)

後援会会長の西さんから、「あいぶろの農作業のサポートをしてほしい」との依頼を受けたことがきっかけです。その後、アルミ缶のリサイクル作業もしている聞き、自分が勤めているユニオン昭和での回収を提案させていただきました。

(インタビュー) ~あいぶろ以外にも、障がい者と直接関わるような活動をされていますか?~

(鈴木さん)

5年程前から、菟野小学校と鶴川原小学校のスキー教室で障がいのある児童のスキー指導員をしています。最初は健常の子どもたちの指導をしていたのですが、別グループで活動していた障がいのある子どもたちを見て、「なぜ健常の子たちと別々にするんだろう。障がいのある子どもたちにも同じようにスキーを教えてあげたい」という思いから、障がい児専任のスキー指導員をすることになりました。先生、PTAの方々からも感謝され励みになっています。

(インタビュー) ~障がいを持つ人達に対してどんなイメージ、お考えをお持ちですか?~

(鈴木さん)

人として生まれてきて、何故障がいを背負って生きていかなければならないのか。健常者と呼ばれる人々と出来る限り同じような生き方ができるように願っています。そのためには、政府や企業がもっと障がい者支援に力を入れていく必要があると感じます。

(インタビュー) ~鈴木さんにとってあいぶろとは?~

(鈴木さん)

スキー教室の延長線にあります。農業やアルミ缶以外にも、出来る限りの協力をしていきたいと考えています。



鈴木さんとあいぶろ作業生、鈴木さんから任されている梅の木の剪定作業の様子

インタビュー後記

気さくでとても親切な鈴木さんは、あいぶろにプラスになると思うことはどんどん声をかけてきて下さいます。去年あいぶろ農園で収穫した里芋やウコンなどは、鈴木さんから種芋をいただき栽培のアドバイスを受けて作りました。アルミ缶の協力も、ご自分の会社の工場長に自ら交渉して下さって回収してもらえらることになりました。

惜しみなく協力して下さる鈴木さんの思いの先には、「障がいを持つ人達の働く意欲や力に繋がっていけば」という気持ちが伝わってきます。小学校を卒業し、中高等部へ進学したスキー教室の元教え子たちからもいまだに慕われているようで、それも鈴木さんの人柄や心意気を思えばうなずけます。

今回はご多忙中、インタビューにご協力いただきありがとうございました。



あいぶろ製菓商品販売店のご紹介

今回ご紹介するのは、旧東海道沿いにお店を構えている鮮魚店の魚為さんです。とても新鮮でお値打ちなお魚が取り揃っているので、いつもお店は人でいっぱいです。秋から春にかけて週1回ほど製菓商品を置かせていただいています。あいぶろのお菓子とともに、おいしい鮮魚も合わせていかがですか。

【魚為(うおため)】 住所 四日市市羽津町15-23(最寄り駅 霞ヶ浦駅)
電話 059-331-2912

